2023 年 5 月 26 日

大和工業株式会社

2023 年 3 月期期末 決算説明会

主な質疑応答（要旨）

Q01. 足元の日本・米国の市況について、スクラップ価格が軟調である中、鋼材市況は堅調であるが業績の推移としては堅調と見ておいて良いか？また、この状況は織り込み済みか？

A01. 基本的にはご認識の通り堅調に進捗しております。昨年の下期以降、落ち込むのかと見ておりました米国事業も想定以上に堅調に推移しておりますが、2024 年 3 月期下期はインフレや金利の動向等、不透明感があり、流通筋が慎重な動きを見せる可能性もあるため、予想数値はその影響も織り込んでおります。

Q02. 中東事業について、同地域で鋼材価格の下落が顕在化しているかお聞きしたい。

A02. 中東地域に限った事では無く、昨年の後半から中国や韓国ミルが、再び輸出市場に出てきており、その動きに伴い鋼材価格の下落が徐々に顕在化してきていると認識しております。

Q03. 日本/ヤマトスチールの圧延ライン更新工事について、2024 年 3 月期の業績に対して同プロジェクトに起因する減益はどの程度と見込んでいるのかお聞きしたい。

A03.詳細な数値は控えさせて頂きますが、稼働日数が 1 割減となるイメージです。

Q04. 米国事業について、競合の Steel Dynamics や Gerdau に比べ販売数量が弱いのではと見ており、シェアが低下しているのではと懸念している。本件について、現在の認識や今後の対応についてお聞きしたい。

A04. ご質問の件については NYS の役員会等でも議論をしておりますが、Steel Dynamics や Gerdau の安値攻勢を受け、若干シェアが低下しているという認識は持っております。当社も Nucor もシェアを確保しマーケットでの存在感を維持していくという事は、意識して取り組むべきであると認識しており、対抗策を打っていくように考えております。

Q05. 米国のバイアメリカン条項で、形鋼や鉄骨に対しての規制がどういった内容となっているのかお聞きしたい。海外で加工され米国に輸入された鉄骨製品はインフラ投資では利用出来ないという決定であったかと認識している。

A05. 米国のインフラプロジェクトに用いられる鉄鋼製品は、米国製に限定されております。市場では鉄骨の輸入量が増加してきておりますが、公共投資・インフラ関連のプロジェクトには用いられず、民間のビルや倉庫等の建設に用いられております。なお、鉄骨の輸入量増加については問題として認識しており対抗策を打っていくよう考えております。

Q06. 日本製鉄が同社の広畑製鉄所(兵庫県姫路市)で電炉を稼働させ、またさらに電炉を追加していく方向性を打ち出しているが、スクラップの調達に何らかの影響が出る可能性が無いかお聞きしたい。

A06. ご指摘の通り、当社と広畑製鉄所とは非常に近い位置関係でございますが、広畑製鉄所で製造予定の製品はモーター等の製造に使われる無方向性電磁鋼板との事で、かなり品質の高いスクラップを使用する必要があり、恐らく日本製鉄構内での発生屑をメインに調達されるのではと見ております。市場からの調達となった場合でも、当社が主に活用しているのはミドルグレードのスクラップであり、直接バッティングする事は無いかと考えております。しかしながら、高グレードのスクラップ需要が高まり。価格が上昇する事で、ミドルグレード以下のスクラップも連れ高となる可能性はあるかと考えております。

Q07. アジア圏や米国で、新規の形鋼プロジェクトは出てきているか。

A07. 我々の認識している限りでは、特に新しいプロジェクトは出て来てはおりません。

Q08. タイ・ベトナムについて、電力料金の今後の方向性や足元の状況についてお聞きしたい。

A08. 全世界共通ではあるのですが、やはり電力料金は上昇傾向となっております。ベトナムでは政府が補助金等で電力料金を抑えるべく対策をとっておりますが、ガスや油価が上昇していけば影響は出てくるかと見ております。

Q09. 米国事業について、流通顧客向けの最終需要はどのような建設分野か。

A09. 倉庫や工場、また一般的なビルの建設用となっております。

Q10. 米国事業について、競合他社からの安値攻勢への対応策としてはどういった施策が考えられるか。価格対応以外でお聞きしたい

A10. 米国/NYS では高張力鋼(High strength steel)の製造を行っており、製品での差別化を図っております。高層ビルや EV バッテリー工場、半導体工場などで採用されるよう積極的に売り込みを行っており、単純に価格競合のみで対抗するのではなく、品質の面でより良く、また高い価格で売れる製品の拡販を行っていく事を考えております。

Q11. 日本/ヤマトスチールについて、圧延ライン更新工事の影響による販売数量減少は完工時期まで継続するのか？

A11. 現在進行中である矯正機の工事は 2024 年 6 月頃の完工を予定しており、圧延ライン本体の工事はその後続いていく計画となっており、ある程度の販売数量の減少は見込んでおります。

Q12. 日本製鉄が形鋼のキャパシティを縮小していくと発表しているが、どういった影響を見込んでいるかお聞きしたい。

A12. 市場への供給量が減少する事となる為、市場は引き締まった状態になると予想しております。当社としてはポジティブな話であると捉えており、関東地域での需要の取り込み(主に鋼矢板)を進めていくように考えております。

以上